

# 桐 kiri

目白の森から風便り

目白学園 広報誌  
学校法人 目白学園  
目白大学大学院  
目白大学  
目白大学短期大学部  
目白学園中学校・高等学校

第13号  
通算111号  
2008.7



平成20年度フレッシュマンセミナー(熱海)  
撮影:佐藤真那人(心理カウンセリング学科4年)  
大森祐佳(写真部・メディア表現学科2年)

Special issue-1  
**書く力、話す力を研ぎあげて  
豊かな表現力とコミュニケーション能力を育む**  
目白研心中学校・高等学校の新たな教育プログラム

Special issue-2  
**キャンパス内に最先端医療機器を備えた  
クリニックがオープン**

目白大学クリニック

輝く目白の星

感謝し、共に考える気持ちを忘れず、  
相談者の“居場所”になりたい

人間社会学部(現 人間学部)心理カウンセリング学科卒業  
大学院心理学研究科臨床心理学専攻修了 仲村 亜津沙さん

目白探訪

新宿キャンパス植物探訪  
学園インフォメーション

## 目白研心中学校・高等学校の新たな教育プログラム

# 書く力、話す力を研ぎあげて 豊かな表現力とコミュニケーション能力を育む

平成21年春、目白学園に「目白研心中学校」と「目白研心高等学校」が誕生します。目白学園85年の歴史で積み重ねてきた教育を基盤に、国際社会で活躍し、日本の将来を担う人材を育てるための新しい学校です。そこで今回は、長い伝統と新たな教育理念とを融合し発展させたこの新学校オリジナルの教育プログラムについて、その一端をご紹介します。

### 時間をかけた研究論文の作成で 「書く力」に研ぎをかける

目白学園では中学1年から3年にかけて、「研究論文」の作成というプログラムを実施してきました。中1の早い時期からテーマを設定し、中3の1学期に完成させるという長期にわたる学習で、平成5年に始まってからすでに15年の実績を積み重ねています。

生徒は中学に入学すると、まず研究論文のテーマの設定に取り掛かります。最初は先生との個別面談などを経て関心のあるテーマを考えます。そして、それらを「理科全般」「医療・福祉」「文学」などの大まかな分野ごとに分類し、生徒はクラスに関係なく、分野別に構成されるグループの中

で担当の先生から指導を受けたり、先生や他の生徒の前で中間発表を行うことで、各自が論文の作成を進めていきます。1年次はホームルームの時間を利用したグループ学習が中心で、2年次での本格的な資料収集や執筆へとつなげていきます。

書き上げる論文は400字詰め原稿用紙20枚以上（写真や図表は枚数換算に含めない）。ほとんどの生徒にとって、これだけの量のまとまった文章を、それも「論文」として内容を筋道立てて論理的に書くの



は初めての経験です。にもかかわらず、このプログラムで書き上げられた論文の中から、旺文社が毎年主催する全国学芸科学コンクールで15年続けて入賞者を輩出。プログラム開始以来、入賞者が途切れた年は一度もありません。全員がハイレベルな論文を目指すことで、確かな「書く力」が身に付き、大学入試での小論文作成やAO入試での資料作成にも大変役に立っています。

このような目白学園の実績を受け継ぎながら、目白研心ではさらに、生徒一人ひとり

生徒が書き上げた論文は、毎年発行する研究論文集に収められます



がそれぞれに関心を持つ職業や学問を意識するようにテーマの設定や論文作成の指導を行なっています。そして、キャリア学習の一環に位置づけることで、自分に向いた学問分野や職業について、生徒自身が早い時期から少しづつ意識することも指し、新学校らしい特色を加えていく予定です。

### 独自の英語教育プログラムで 総合的な英語力の向上を目指す

「英語の目白学園」ならではの英語教育プログラムとして知られる「ACE Program」。目白研心でも世界で通用する英語力の習得を重視し、このプログラムを発展的に受け継いでいます。

「ACE」とは「Active Communication in English」（活発な英語でのコミュニケーション）、または「Advanced Course of English」（英語の上級コース）の略称です。「読む・書く」という従来の英語教育の基本はしっかりとおさえつつ、「聞く・話す」という能力をも向上させるため、「英語で英語を学ぶ」スタイルの授業を平成7年から実践。平成14年には文部科学省から、都内の私立高校としては初めて英語教育の研究校



カナダでの語学研修

(Super English Language High School。略称「SELHi」)に指定されるなど、目白学園の先進的な英語教育プログラムは常に高い評価を受けています。

目白研心では、中学1年から高校1年まで全クラスがこのACE Programで英語授業を実施。高校2年で英語選抜クラスに進むと、1週間の全授業数の3分の1近くがこのプログラムでの英語授業となり、海外の大学へも進学可能な英語力を研ぎています。

また、在学中の海外語学留学も積極的に支援していきます。現在、目白学園ではカナダやオーストラリアの姉妹校に1年間（通常は高1の夏から高2の夏まで）留学できるほか、3ヶ月間の交換留学制度もあり、これらはいずれも目白研心へと継承されています。交換留学の場合、生徒との交換でやって来た留学生が一定期間、同じ教室で机を並べるので、校内での日常生活が身近な国際交流の場ともなっています。

### 伝統と新しい理念とが融合し 自ら考え、表現する力を育む

研究論文の作成やACE Programなどのプログラムは、自ら考え、それをさまざまな手法で表現し、コミュニケーションを図る能力を養うという点で共通しています。

目白研心の学習プログラムはこのように、確かな学力はもちろん、これからの時代に求められる創造力や表現力などを包摂する総合的な能力を、時間をかけて育むために練り上げられています。それは、長年積み重ねてきた確かな実績と新しい時代

に対応した構想とが融合して生まれた、まさに新生・目白研心ならではのプログラムといえるでしょう。



目白研心中学校・高校に関するさらに詳しい紹介は、現在無料配布中の2009年度版入学案内でもご覧いただけます。資料請求その他のお問い合わせは、本校の入試広報室までお願いいたします。

目白研心中学校・高等学校  
入試広報室  
TEL:03-5996-3133  
FAX:03-5996-3186  
E-mail:jhko@mejiro.ac.jp  
URL:www.mejiro.ac.jp/mk/

## 平成21年2月、 目白研心の新校舎が誕生！

目白研心中学校・高等学校の誕生に先駆けて、来年（平成21年）2月に新校舎が誕生します。

地上5階建ての建物の中にメディアセンター、アリーナ、カフェテリアなどの諸施設を組み入れており、11,071平方メートルに及ぶ延べ床面積は本学園最大の広さです。



新校舎全景



(左) メディアセンター：  
図書館の機能のほか、進路関係資料や国際交流情報の提供、各種情報の検索ができる多目的情報空間です。コンピュータを利用してe-learningができるスペースや自習室も完備しています。



(右) ラーニングスペース：  
質問や学習相談、各種ミーティングなどを行う場所です。生徒はここに来れば、どの教科の担当教員とも話ができるようになっています。

**目白大学クリニック**—耳鼻咽喉科・リハビリテーション科（言語聴覚療法）—

# キャンパス内に 最先端医療機器を備えた クリニックがオープン

めまいやいびきといった症状は往々にして軽視されがちですが、実は何らかの疾患に起因する場合があり、早期の診断と治療が重要とされています。このような比較的身近な症状から最近になって認知された新しい病まで、幅広い症状に対する診療を提供するクリニックが、岩槻キャンパス5号館に今年4月、開院しました。患者さんに先進的な医療を提供する場であると同時に、本学言語聴覚学科の学生の体験的な学びの場としても大きな役割を果たすことになるこの目白大学クリニックについて、院長に就任した坂田英明教授にお話を伺いました。

「医学部を持たない大学が敷地内に診療所を開設するというケースは、おそらく本学が初めてではないかと思います。その目的の一つが、言語聴覚学科の学生の臨床実習施設として機能することです」。本学の言語聴覚学科は、国家資格である言語聴覚士を養成する学科です。言語聴覚士は、聴覚障害、言語発達障害、发声機能障害、摂食・嚥下障害、失語・高次脳機能障害などによりコミュニケーションに問題のある方に対して、検査・評価・訓練・指導などを通じて援助を提供する専門職です。「本学は、言語聴覚学科だけでなく理学療法学科、作業療法学科などいわゆるコメディカル分野が充実しています。言語聴覚士は比較的新しい国家資格ですが、コミュニケーションに関連する幅広い領域に関わる専門職として重要性が増してきており、就職の間口も広がってきています」。

現在、本学の言語聴覚学科（平成18年4月設置）の最上級生は3年生。卒業単位として必修の学内臨床実習が今秋から始まります。4年次には学外医療現場での実習が課されていますが、目白大学クリニックがこうした実習の場として最適である理由を坂田教授は次のように説明します。

## 恵まれた環境で患者さんに直に接する 機会が持てる臨床実習が実現

「まず第1に、ここには大学病院以上といつてもよいほどの最先端の診断・治療機器が揃っています。そもそも耳鼻咽喉科の対象範囲は広く、新生児から高齢者まで、首から上のほぼすべての感覚器官の診断・手術・リハビリまでをカバーしています。

また、現在患者の4割近くを占める小児の耳鼻科に関しては未開拓分野といってよいほどですし、以前は病気と認められていなかつたいびきや、めまいに代表される神経耳科学などはほとんど専門家がない状態です。こうした分野に光を当てていくためには、単に数値を測定するような検査だけでなく、感覚機能を解明し、「五感のコラボレーション」を解き明かす研究が必要です。本院では光トポグラフィーという高度機器を用いて、様々な感覚から入ってくる刺激に脳がどう反応するかまで探ることができます。こうした最新鋭の機器に接することができる点は、大きなメリットだと思います。

2つ目は本当の意味で臨床実習ができるという点です。学外施設での実習ではどうしても見学の域を出ることは難しい。こ

こでしたら患者さんの同意のもと、学生に

直に問診などをしてもらったり、実際のリハビリに携わってもらうことができます。これは就職後の大きな財産になると思います」。

## 特色を活かし、 感覚器研究の“メッカ”に

特色ある耳鼻咽喉科・リハビリテーション科のクリニックとして開院して約2ヵ月。通常疾患で来られる地域の方から、岐阜や大阪など遠方から特殊診療のために来られる方まで、毎日大勢の患者さんが訪れます。しかし、「知名度はまだまだです。学生はもとより地域の方にももっと知って利用していただきたいですし、私たちも診療だけでなく、学校、保育園、高齢者施設などの感染症予防指導などを通して



保健医学部言語聴覚学科教授  
医学博士  
日本耳鼻咽喉科学会専門医  
日本小児耳鼻咽喉科学会評議員  
**坂田 英明教授**  
さかた ひであき

昭和63年に埼玉医科大学卒業。帝京大学医学部付属病院耳鼻咽喉科助手、ドイツのマグデブルク大学耳鼻咽喉科研究員を経て、平成17年より埼玉県立小児医療センター耳鼻咽喉科長兼副部長に就任する。難聴、いびき、めまい、睡眠時無呼吸などを専門分野として、豊富な知識と臨床経験を有し、直接面接法によって選ばれた埼玉の実力医師にも選出されている（「迷ったときの医者選び 埼玉編」医療評価ガイド取材編）。耳鼻咽喉科の分野で国際的に名高い坂田英治埼玉医科大学名誉教授とともに、親子2代で診断・治療・研究に取り組んでいる。共著に「難聴に効くCDブック」（マキノ出版）、「めまいを治す本」（マキノ出版）、「危ない子どものいびき」（芳賀書店）など多数。

## ◆X線透視システム



透視検査で嚥下状況はもちろん、X線では各器官の状況を観察できる。耳鼻咽喉科では珍しいX線透視システム。通常は、患者にバリウムを飲用してもらい、嚥下状況や胃を検査する。フィルムレスなので、他病院へもUSBで携帯が可能。

## ◆重心動搖計



## ◆光トポグラフィーシステム



脳と感覚器官の関係を解き、脳機能の解明に活かす。光トポグラフィーは、赤外線が出る極の付いた装置をかぶつた被験者に様々な刺激（音、光など）を与え、刺激の種類と脳の活動部位・レベルとの関係を検査する機器。脳が情報をどう処理しているのかを検査できる。刺激への脳の反応レベルが高いとモニターに映し出された脳の対応部位が赤くなる。赤外線は日中の日射しの3分の1ほどの微弱なものなので、患者のリスクはほとんどない。被験者の得意分野を探ったり、言葉の話せない乳児や自閉症の子どもの心の中（認知神経心理）を読み解き、治療に役立てることができる。

最先端の研究機関などに設置されるのが一般的で、坂田院長は、現在国内で数少しか存在しない「感覚ドック（味覚・聴覚・嗅覚と脳の反応の関係値を測定する）」の開設を構想している。

# 目白大学クリニックが誇る 最先端医療機器

花粉症治療の救世主。  
花粉症の悩みでクリニックを訪れる方が多い。目白大学クリニックでは投薬では効果の薄い患者に対してアルゴンプラズマ凝固装置による治療を実行している。この装置からはレーザーではなく、花粉症を治療するガスが噴出する。ガスであるため直接患部に当たらず、患者へのリスクが低い。通常入院して手術を受けると20万円ほどかかるところ、この機器を用いて日帰り手術でさせれば、鼻腔の一方につき3千円と負担面でも患者に優しい。

めまいの原因を診断。  
めまいの原因を特定する検査で使用される。装着している双眼鏡のような装置に写った動く玉を患者の目の前で追うと、その眼球の動きがモニター画面に映し出される。その動きによって、平衡感覚の障害が耳にあるのか脳にあるのかなどの判定ができる。

## ◆電気眼振検査機器



平衡感覚をチェックする。  
測定台に直立した患者の重心の位置と移動を連動したコンピュータが感知し、カラダの前後左右のバランス具合を検査する。めまい障害の有無や程度、高齢者の転倒の危険性を測ることができる。同様のシステムが流行の健康管理ゲーム「バランスWiiボード」に使われている。

## ◆電子スコープ



聴喉・鼻・耳の診断に用いられる。  
先端に小さなカメラが付いた管を耳や食道の奥まで入れ、内部を観察する。内部の映像は後部モニターに映し出され、患者も自分の症状を確認しながら説明を受けることができる。

## ◆ABR(聴性脳幹反応検査機器)



聴覚の精密検査をする。  
聞こえているか否かを言葉で伝達できない新生児や乳幼児などの聴覚検査に用いられるABR。電極を付け、音に対する脳幹の反応度を測定する。

患者さんが何を望んでいるかを限られた時間の中で理解すること。問診に勝る治療はない信じています」。目白大学クリニックは、学生にとって恵まれた環境の中で技術や知識を学べる場であると同時に、医療に携わる者が忘れてはいけない精神を学ぶ場でもあるようです。



## 第12回 新宿キャンパス植物探訪

「森の学園」と呼ぶにふさわしい本学新宿キャンパス。

その名の通り、敷地内には700余種類にものぼる植物が生息しています。

今回は、季節の移り変わりを告げ、心を和ませる環境を演出してくれているこの“植物たち”をご紹介します。

①【ヤマモモ】  
山に生え、モモのような果実をつけること由来。  
白目学園創立者の佐藤重遠・フユ両先生の銅像の真後ろに立っている。



②【アジサイ】  
梅雨から夏にかけて咲き、咲いているうちにだんだん色が変化していくため、「七変化」とも呼ばれる。本館裏側にひっそり咲いている。



③【ミヤギノハギ】  
宮城県の宮城野に多く生育することから付いた名。  
高さは1~2mで8~10月頃に4号館正面玄関前で紫紅色の花を咲かせる。



④【タチカンツバキ(立寒椿)】  
真冬に咲くのが特徴で、本館前の池のほとりで雪化粧した姿を見られることもある。



⑤【ソメイヨシノ】  
花の色は淡紅色から、満開になると白色に近づく。  
毎年4月頃、10号館の正面入口前で満開の花を咲かせ、学生たちの眼を楽しませている。



⑥【イロハモミジ】  
裂片を数えるときに「いろはにはへと…」と数えたことからその名が付いた。  
図書館入口の両サイドに位置し、秋には赤や黄色に彩られる。



⑦【モミノキ(ウラジロモミ)】  
葉の裏側が白いことに由来する。  
クリスマスツリーによく使われることで知られ、1号館前のモミノキもシーズンになるとクリスマス風に装飾される。

⑧【リュウキュウツツジ】  
キツツキの一変種で耐寒性に優れている。  
5~6月にかけて、東門の両脇で白い大輪の花を咲かせる。

⑨【ヒラドツツジ】  
白、桃、赤紫の大きな花を咲かせ、街路樹や庭園などによく使われる。  
4~5月にかけてエクステンションセンターに続く階段の下で花開く赤、白、ピンクのコントラストが、緑豊かなキャンパスにいっそうの彩りを添える。

### Shinjuku Campus Map



\*本欄取材にあたり、株式会社東京緑花東京支店工事部の坂元孝憲部長にご協力いただきました。  
ありがとうございました。

## 学園インフォメーション

### 中学校・高校

2008.4.9 入学式

白目学園中学校・高等学校の入学式が行われた。野中校長からは建学の精神「主・師・親」について、佐藤理事長からは学園創立者の佐藤重遠先生についての講話があり、新入生一同、白目学園の生徒としての自覚を持つことができたようであった。

2008.5.17 合同運動会

白目大学岩槻キャンパスにおいて中高合同の運動会が開催された。今年のスローガンは「Win a Victory」。五月晴れの空の下で、勝利を目指して赤組・白組とも各競技に熱が入った。女子校としての運動会は今回が最後となつたため、本校の関係者にとって感慨深い一日でもあった。



2008.6.6 歌舞伎教室

高校3年生が国立劇場において、歌舞伎「神靈矢口渡」を鑑賞した。役者の華やかな衣装や舞台装置、お囃子など、現代と全く違う日本の伝統的な風俗習慣、音楽に驚きと大きな関心を抱いた一日となった。

### 大学・短大・大学院

2008.3.25 学位授与式

中野サンプラザにおいて平成19年度大学・短期大学部の学位授与式が、厳謹な雰囲気の中で執り行われた。前日の冷たい雨模様から一転、春の陽光に誘われて競うように



咲き始めた桜の祝福を受け、新宿・岩槻両キャンパスの卒業生・修了生たち1,167名が本学を卒業していった。

2008.4.2 入学式

大宮ソニックシティにおいて平成20年度大学・短期大学部の入学式が挙行され、新宿・岩槻両キャンパスの大学・短大・大学院の新入生あわせて1,833名が厳謹な面持ちで式に臨んだ。好天に恵まれた会場周辺は桜の花が咲き誇り、式典終了後には桜吹雪の中で記念撮影に興じる新入生や保護者の方の姿が目立った。



2008.4.7~9 フレッシュマンセミナー

熱海のニューフジヤホテル他3ヵ所のホテルを会場として、新入生対象のオリエンテーション行事「フレッシュマンセミナー2008」が実施された。今年は新入生約1,300名、「リーダー」と呼ばれる先輩学生約170名、それに教職員約100名が参加した。学長講話などの全体プログラムではやや緊張気味の新入生も見られたが、学科・クラスに分かれての研修では先輩や先生方へ熱心に質問するなど、新しい大学生活への意欲を窺わせた。

2008.4.15 目白大学クリニック開院

岩槻キャンパス内に耳鼻咽喉科・リハビリテーション科(言語聴覚療法)を診療科目とする目白大学クリニックが開院した。初日から大勢の来院者が訪れ、坂田英明院長はじめ精鋭のスタッフによる診療業務を順々に実施。本学による医療分野での地域貢献が、いよいよ本格的にスタートした。



2008.4.20 春のキャンバス見学会

新宿・岩槻両キャンパスにおいて春のキャンバス見学会が開催された。平成21年度の入試方法や新学科の紹介など最新の情報をいち早く受験生に提供するとともに、併設の短期大学部では生活科学科・製菓学科が趣向を凝らした体験授業を実施。また、アーネスト・カーリー・ジョンソン研究所所長の西山淳氏による特別講演「親子で検証! いまどきの大学入試」では、ここ数年の大学入試の状況や志望大学を決めるときのポイントなどが解りやすく解説された。

2008.5.7/5.31 スポーツフェスティバル

7日は岩槻で、31日は新宿で、それぞれ恒例のスポーツフェスティバルが行われた。岩槻では約700名が、新宿では約900名の学生や教職員が参加して熱戦を開催。岩槻では同日、全学生・教職員による避難訓練も合わせて実施された。



### 人間福祉学科2年 堀越信司君 北京パラリンピックに日本代表として 出場決定!



人間福祉学科2年 堀越信司  
北京パラリンピックに日本代表として  
出場決定!

人間福祉学科2年 堀越信司 (ほりこし・ただし) 君が、今年9月6日から開催される北京パラリンピック大会の陸上競技部門(視覚障害)に日本代表選手として参加することが正式に決まり、日本パラリンピック委員会 (JPC) から発表されました。障害者スポーツの世界では視力や視野の範囲によって、全盲のB1から弱視のB3までの3クラスに分かれており、右眼が全盲、左眼が弱視の堀越君はB3クラスの1,500m走に出場します。

中学時代に陸上を始めた堀越君は、高校時代から全国大会で大会記録や日本記録を次々と更新。本学入学後の昨年8月にはブラジル・サンパウロで開かれた世界選手権に進出し、見事に10,000m走で銅メダルを獲得する快挙を成し遂げました。現在は白目大学陸上部の部長も務め、岩槻キャンパスのグラウンドなどでトレーニングを重ねています。

日本代表選手となった堀越君はこれから大会直前まで国内で強化合宿を行い、8月31日に日本選手団の一員として北京へ出発。大会期間中は五輪選手村に滞在し、北京大会の開会式と閉会式にも参加する予定です。文武両道を見事に両立させている堀越君の健闘を大いに期待しています!



(上) 世界選手権で力走する堀越君 (2007年サンパウロ)  
(左) 学内に掲げられた代表選出を祝う横断幕

Topless

テーブルで熱心に絵を描く女生徒、コーナーに並べられた椅子でおしゃべりに興じるグループ、黒板にいたずら書きをしている子もいます。一見ありふれた中学校の屋休み風景ですが、一教室分の広々としたスペースには教室とはちょっと異なった、自由で開放された雰囲気が漂います。ここは浦安市立美浜中学校のカウンセラ室。訪れる生徒や保護者、教師の相談にのっているスクールライフカウンセラーの仲村亜津沙さんは、目白大学の卒業生です。

「開設当初は1人、2人でしたが、今は1日に10人以上が来室するようになりました。学校生活、対人関係、家庭環境、進路などについて様々な問題を抱え、予約を取って來るのがいわゆる“相談”ですがそれ以外に、雑談目的や自分の好きなことをするためにやってくる生徒も多いですね」無邪気さと大人への過渡期特有の危うさが同居する難しい年代である中学生の中には、教室内で孤立したり、居場所がなかったりという生徒が見られることも少なくないのだと。『そうした生徒たちがここで好きなことをして発散して教室に戻っていく、あるいは雑談の中でちょっと本音を吐露していく、そんなほっとできる居場所』——仲村さんはカウンセラ室のあり方をそう考えています。平成19年4月の赴任から1年。当初はプロの臨床心理士としてやっていくことに多少の不安もあったそうですが、生徒たちと年齢が近いこともあり、今やなんでも話せる“お姉さん”的存在になりつつあります。

### 先生方への信頼が 大きな支えに

仲村さんが心理学に興味を持ったきっかけは、

心理学者ユングの著書との出会いでした。「人の心を学術的に捉えるということに興味を持ちました」。いろいろ調べるうちに、目白大学に少人数で臨床心理学を学べる学科があることを知り、「こここそ、学びたいことが学べる場所だ」と思つたそうです。

実は仲村さんは目白大学心理カウンセリング学科の1期生。上級生がいなかったこともあり、入学後は先生方の研究室が仲村さんの“居場所”になっていました。どの研究室も開放的で、経験された臨床や研究のお話を担任以外の先生にも1対1で伺えたことが非常に勉強になったと振り返ります。さらに、臨床心理士の受験資格を得るために必須とされている福祉、医療、教育の3つの現場での実習は、それまで授業や先生のお話から学んできたことがいかに有用であったかを確信する場となりました。「特に、ある中学校での実習は、現在の自分の基礎をつくってくれたと思っています。理論を応用し、実践していこうとしたとき、それまで学んだことがいかに効果的であるかが具体的にわかったのです。そして、自分していることがきちんと人への援助になっていると確認できた、貴重な体験でした」。

目白大学での学びの大きな特長の一つは、指導してくださいの先生方のすばらしさだと語る仲村さん。「スーパービジョン体制(※)がしっかり確立しているので実習などで対応に困ったとき、すぐに先生方に相談ができることが大きな支えになりました。プロのカウンセラーとして実績を積まれている先生方の



言葉は、迷っている私にはとても心強く響きました。今でもカウンセリングの最中に、恩師の言葉が頭の中に“湧いて”くることがあります(笑)。あの先生なら何とおっしゃるだろうかと思いながら相談にのっていることもありますね」。

### 目白での学びを活かし、新たな挑戦を

この学校では6月から、生徒の不適応行動を予防することを目的とした新しいタイプの授業が始まります。5つに分類した心の働きのバランスを調べる「エゴグラム」という質問紙を用いた心理教育で、回答の分析により被験者のニーズが明らかになり、それをフィードバックしていくことによって不適応行動へつながることを未然に防ごうという試みだそうです。

「スクールカウンセリングは不適応行動に対する予防という側面も重視されますが、一方でこの教育法は生徒の特性のバランスを見ることによりその子の優れた面を発掘し、それを伸ばす方向へアドバイスを送るということも意図しています。一緒に考えていくというスタンスを保ちながら、その子の成長を目の当たりにできるのがこの仕事の醍醐味の一つですから、今からとても楽しみです。」目白大学の先生方から学んだという、「相談者のお話を聴かせていただいているという感謝の気持ち」を原点に踏まえつつ、新たな領域への挑戦に目を輝かせる仲村さんでした。

※ スーパービジョンとはセラピストやカウンセラーの訓練最終段階のこと。訓練生はクライエント(相談者)の治療面接と並行して指導者であるスーパーバイザーの面接を繰り返し受け、自分のケース過程を報告して指導・助言を受ける。

## 輝く目白の星

# 感謝し、共に考える気持ちを忘れず、 相談者の“居場所”になりたい

平成16年 人間社会学部(現 人間学部)心理カウンセリング学科卒業  
平成18年 大学院心理学研究科(臨床心理学専攻)修了

仲村 亜津沙さん(臨床心理士、スクールライフカウンセラー)  
なかむら あづさ